

担当教員	長崎 大樹	教科	美術		
単元名	洞窟壁画から美術の本質を探る	学年	MYP 5	時間数	3

重要概念 (Key concept)	関連概念 (Related concept(s))	グローバルな文脈 (Global context)
創造性	表現, 解釈	個人的表現と 文化的表現
探究テーマ (Statement of inquiry)		
洞窟壁画の多様な解釈により, 人類の文化的表現方法について思索することで, 人類の表現の本質について考える		
探究の問い (Inquiry questions)		
<p>事実的な問い(Factual)…洞窟壁画は何か。どのようなところにどのような素材で描かれたのだろうか。</p> <p>概念的な問い(Conceptual)…洞窟壁画はなぜ描かれたのであろうか。</p> <p>議論的な問い(Debatable)…洞窟壁画が描かれた理由が指し示す, 人類の持っている表現の本質とはなんだろうか。</p>		
目標 (Objectives)	形成的評価 (Summative assessment)	
Criterion B: 発展 B ii 最終的なレポートや振り返りについて, 芸術的意図を探究テーマに沿って明確に提示する。	GRASPS G: あなたの目標は「なぜ洞窟壁画が描かれたのかを考え, 他者と意見を交流しながら思索を深めること」です。 R: あなたは考古学者です。	総括的評価課題と探究テーマとの関係: 洞窟壁画の描かれた場所や画材を知った上でレポートに様々な考察をすることで思索を深めるとともに, 他者と意見や考えを交流し互いにフィードバックをすることにより, 客観的視点を

<p>Criterion D: 評価</p> <p>D ii 学者としての自分の成長を振り返る。</p>	<p>A: 受け手は、クラスメイトです。</p> <p>S: クラスメイトと洞窟壁画の意味について議論する場です。</p> <p>P: 自分の考えをまとめたレポートや振り返りシートを成果物とします。</p> <p>S: 作品は観点 ABCD で評価されます。また、8段階で評価されます。</p>	<p>取り入れながら表現の本質について探ることができる。</p>
<p>学習の方法</p>		
<p>○コミュニケーションスキル</p> <p>…他者の意見を尊重しながら、自らの意見を伝えることができる。他者の意見や考えに対してフィードバックを行うことができる。</p> <p>○批判的思考スキル</p> <p>様々な考え方ができる問いを通して、多角的に考えることができるようにする。問いを認識するために注意深い観察を実践し、議論を形成するために関連する情報を集め、整理することができるようにする。</p> <p>○情報リテラシースキル</p> <p>さまざまな事実や情報にアクセスし、関連づけることができるようにする。他者に伝えるために情報を統合・整理することができる。</p>		

--

内容	学習過程
<p>1 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> 洞窟壁画についての基本的な事実についての説明 洞窟壁画について「なぜ描かれたのか」という視点から自分なりに考えてみよう <p>2 時間目</p> <p>自分の考えを深め、文章を完成した後、学習班のメンバーに自らの文章を読んでもらい、フィードバックをもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> フィードバックを基に、もう一度自分なりに考え、考えを修正し、深める。 <p>3 時間目</p>	<p>1 時間目</p> <p>洞窟壁画についての現在判明している基本的な事実についての説明を行う。洞窟はどのようなところにあり、洞窟の環境はどのようなものであったか、また、洞窟壁画はどこに何で描かれたのかという情報を理解する。また、洞窟壁画について「なぜ描かれたのか」という視点から自分なりに考える。 (情報リテラシースキル, 批判的思考スキル)</p> <p>【事実的な問い(Factual)】 洞窟壁画は何か。どのようなところにどのような素材で描かれたのだろうか。</p> <p>【概念的な問い(Conceptual)】 洞窟壁画はなぜ描かれたのであろうか。</p> <p>2 時間目</p> <p>自分の考えを深め、文章を完成した後、学習班のメンバーに自らの文章を読んでもらい、フィードバックをもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> フィードバックを基に、もう一度自分なりに考え、考えを修正し、深める。(コミュニケーションスキル, 批判的思考スキル) <p>【概念的な問い(Conceptual)】 洞窟壁画はなぜ描かれたのであろうか。</p>

<p>自らの説を班で共有し,班で共有したことを全体で共有する。また,それぞれの説の共通点を考え,自分なりにまとめる。</p>	<p>3時間目</p> <p>クラス全体に意見を共有し,全体から出た意見を基に教師と生徒と共に「なぜ描かれたのか」という大きな疑問について考える。前時に考えを深めたものを学習班で共有し,共有したものを全体とさらに共有する。(コミュニケーションスキル,批判的思考スキル)</p> <p>【議論的な問い(Debatable)】洞窟壁画が描かれた理由が指し示す,人類の持っている表現の本質とはなんだろうか。</p> <p>【概念的な問い(Conceptual)】洞窟壁画はなぜ描かれたのであろうか。</p>
	<p>形成的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 提出されたそれぞれのレポートや文章に対するコメントによるフィードバック ・
	<p>指導の差異化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 壁画のイメージを持ちにくい生徒に対して,具体的な形のイメージを持ち,課題の趣旨を理解するため,参考作品を用意する。 ・ グループでの発表を通し,作品やワークシートの内容を共有する。
<p>資料・備品・機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クロームブック 	

指導前	指導中	指導後
<p>現代における「美術」の一般的な捉えられ方において、美術が選ばれた感性の鋭い人間のみが楽しむものであるというような誤解が生徒たちにあるように見えた。これまでに行なった現代美術の授業後は美術が身近に感じる生徒も増えたように感じるが、未だもって「美術」は遠いものと感じている生徒もいる。</p> <p>今回の洞窟壁画を考察する題材を通して、美術表現活動が先祖代々行われ続け、本能的な取り組みであると理解することにより、生徒たちがより美術を身近に感じられると今後の美術活動にとって良い影響があるだろうと考えている。</p>		